

近年、ビザの緩和やLCC(格安航空会社)の就航などを背景に、東南アジアを中心とするイスラム教圏からの訪日外国人旅行者が急増しており、今後もムスリム(イスラム教徒)によるインバウンドの拡大が期待されます。

ムスリム旅行者を受け入れるうえで、イスラム教の生活習慣に関する教えについて理解し、彼らが日本に滞在している間も教えを守れるよう配慮する必要があります。

イスラム教の生活習慣に関する基本的な教えとして、「ハラル(許された行為・物)」と「ハラム(禁じられた行為・物)」があります。例えば、食における代表的なハラムとして豚肉やアルコール飲料があり、ムスリムはハラムを避けるべきとされています。このため、飲食店や食べ物を販売する土産物屋などは、ムスリム旅行者がハラムとされる食材を口にしないよう、配慮する必要があります。豚肉・豚肉由来成分(ラードやゼラチン、乳化剤などの調味料・添加物)やアルコールが入っていない食材・料理の提供に加え、ムスリムの中にはハラム食材に触れていない調理器具の使用や食器での提供を求める声もあり、細心の注意を払って対応する必要があります(図表1)。

また、イスラム教の生活習慣に関する基本的な教えとして、毎日5回、決められた時間に行う「礼拝」が挙げられます。清潔な場所で行うこと、礼拝前に体を清めること、キブラ(イスラム教の聖地メッカの方角)に向かって行うこと、などが決められており、ムスリム旅行者への配慮として礼拝場の提供やキブラの表示が挙げられます(図表2)。

おもてなしにおいて注意すべき点は、ムスリム個人の信仰心を尊重するということです。「旅行中も普段と同じく教えを守りたい」と考えるムスリムがいる一方、「できる限りの対応で構わないので旅行を楽しみたい」と考えるムスリムもいるため、一人ひとりの信仰心に応じることが大切です。

世界のムスリム人口は2010年時点の推計値で16億人、世界の人口の約23%を占めており、2050年には28億人と約30%まで拡大する見通しです(図表3)。今後さらなるインバウンド観光の拡大に向けては、ムスリム旅行者の取り込みが重要となります。そのためにもイスラム教やその教えについて正しく理解し、可能な範囲から取り組みを進める必要があるでしょう。

三重銀総研 調査部研究員 畑中 純一

図表1 ムスリムへのおもてなし①<食>

・飲食店などのメニューで、豚肉やアルコールの使用について表示する

<絵を使ったメニューの例>

non-pork

non-alcohol

図表2 ムスリムへのおもてなし②<礼拝>

・ホテルや空港、商業施設などで一時的な礼拝場所や常設の礼拝室を用意する

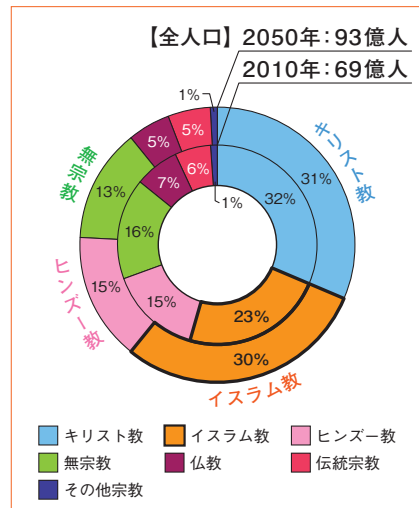
・礼拝場所にキブラを示すマークやキブラコンパス(方位磁石にキブラを示す機能を追加したもの)を用意する

<キブラマークの例>

Kiblat

<天井に表示したキブラマーク>

図表3 世界の宗教別人口<2010年、2050年>



(資料) 観光庁「ムスリムおもてなしガイドブック」、昇龍道プロジェクト推進協議会「ムスリム旅行者受入の心得」など各種資料をもとに三重銀総研作成

(資料) Pew Research Center